

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0173100223		
法人名	社会福祉法人じねん		
事業所名	グループホーム愛敬(愛ホーム)		
所在地	上川郡愛別町豊里291番地2		
自己評価作成日	令和2年8月12日	評価結果市町村受理日	令和2年10月27日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=0173100223-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=0173100223-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ニッポン・アクティブライフ・クラブ
所在地	札幌市北区麻生町3丁目5の5 芝生のアパートSK103
訪問調査日	令和2年9月27日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

恵まれた自然豊かな環境の中で、利用者様と屋内・外での生活を安心して楽しく過ごして頂ける様努め、理念である「のびのび にこにこ 暖かく」「ゆっくり いっしょに たのしく」「長寿喜楽 敬老奉仕」を実践出来るよう努力し、「ここなら入所したい」と思える施設を目標に取り組んでいます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所はJR愛別駅から約2キロ離れた閑静な田園地帯に小高い山を背景にして位置し、自然環境に恵まれている。事業所理念「①のびのび、にこにこ、暖かく。②ゆっくり、いっしょに、たのしく。③長寿喜楽、敬老奉仕。」に沿った支援を心掛けている。当法人は4つのグループホームを運営し、研修や行事、災害対策などを連携しながら質の高いケアに努めている。居間・食堂は一体的で広くて明るく、塗り絵などの利用者の作品が飾られている。トイレやリネン室、玄関は清潔に保たれ、回廊式の廊下からは美しい四季の移ろいが楽しめる。自由に行き来できる二つのユニットでは、利用者が集まって体操をしたり、大きな風呂では仲良し二人が一緒に入ったりしている。食事は職員と共に一つのテーブルを囲み和やかに明るい雰囲気の中で楽しんでいる。職員は利用者1人ひとりのペースに合わせてゆっくりと笑顔で接している。毎月愛別町の移動図書館が訪れ好きな本を借りることができる。事業所は行政、地域住民と行事などを通じて日頃から交流し信頼関係を築いている。地域住民からの農産物の差し入れも多く、地域に根付いた事業所となっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を掲示し、毎朝の申し送り、ミーティング時に職員で唱和しゆっくり寄り添うケアに取り組んでいます。	理念はパンフレットに掲載し、事業所内にも掲示している。理念及び事業所独自の「介護20か条」を朝のミーティング時に唱和し、職員は常に意識して実践に繋げている。又、年度初めに理念についての理事長の講話があり、理念について確認し合い、共有化を図っている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	野菜の差し入れを頂いたりする等交流させて頂いています。例年ですと各種行事に参加して頂いていますが、コロナで思うように出来ていません。	地域の祭りなど行事への参加や事業所主催の「納涼祭」に行政や地域住民、家族など大勢が参加し相互に交流し、愛別ひよっこ踊り会などをボランティアとして受け入れていたが、今年はコロナの影響で全て自粛している。このような中でも地域からの野菜の差し入れが日常的にあり、住民との良好な関係は継続している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進委員会を通して「役に立つ」事について話し合いを行っています。オレンジカフェの行事に参加しています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	家族会、民生委員、行政職員、地域包括センター職員が構成委員となり、2か月に1回開催し、利用者の状況等意見交換を行い、サービスの向上に取り組んでいます。	運営推進会議は2か月毎に1回、行政、民生委員、家族などが参加して開催している。会議では事業所の活動状況や運営についての意見交換の他、利用者の状況や行事報告などを行いサービスの反映に努めている。コロナの影響で3月と5月の会議は中止し、運営会議のメンバーには電話や写真の送付で報告している。7月は通常通り開催している。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	入所状況、行事予定の報告と開催等の協力を得ています。おたよりの配布作業、ご家族との連絡等、緊急時対応についても協力体制が得られています。ケア会議へ参加しています。	町の福祉課職員が運営推進会議に参加しているが、運営状況や事業所の実情、取り組みについて積極的に伝えている。また、利用者に関する手続きなどで助言や提言を受けたり、地域ケア会議や研修会に参加して連携し協力関係を築いている	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員一人一人が正しく理解し身体拘束の無いケアを実践しており、日中玄関には鍵はせず自由に出入り出来るよう配慮しています。	高齢者の権利擁護や身体拘束に関するケアについては、外部研修や内部研修を通して理解を深め実践に活かしている。特にスピーチロックについては全職員の共有意識を図り、気付かないうちに利用者の気持ちを押さえつけていないか点検している。防犯上夜間のみ玄関の施錠をしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	ミーティング時に虐待防止について話し合い、言葉や態度での虐待がないか、職員同士でも話し合っ対応しています。		

グループホーム愛敬(愛ホーム)

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	ミーティング時、外部研修で学ぶ機会を設け、必要な場面で対応出来る体制を取っています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に説明をさせて頂き理解を得ています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者、ご家族の意見を聴取し受入れ、運営推進会議、家族会、面会時に意見・要望をお聞きし、ミーティング等で話し合い、運営に活かしています。今年はコロナの関係で生活状況等は文書、電話等でしています。	管理者や職員は家族の来訪時や運営推進委員会、2カ月に1回の家族会、電話などで意見や要望を気軽に伝えられるような雰囲気作りに留意している。又、利用者についても日常の会話からくみ取るようにしている。家族に「ホームだより」を発行して様子を知らせ安心と信頼を得ている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員全員との面談を行い、意見を聞く機会を得ています。	職員の意見や提案は、毎月のユニットカンファレンスや定期的な総合施設長との面談で把握し運営に反映させている。管理者は日頃から話し易い雰囲気づくりをこころがけている	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務状況の把握をし、各自やりがいや向上心を持ち働ける様努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月1回内部研修を行い、外部研修に参加する機会を設け、報告書を作成し共有に努めています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同一法人のグループホームと交流を行い、グループホーム協会に加入し、研修会参加や意見・情報交換をする中でサービスの向上に取り組んでいます。		

グループホーム愛敬(愛ホーム)

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	会話をもち、生活習慣・好みを伺い関係づくりに努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所時にご家族のお話を伺い、入所後も何でも話して頂ける雰囲気づくりに努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極めた、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人とご家族の希望される支援を見極めたサービス提供に努めています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者と共に作業を行いながら、ご本人の自主性を尊重する関係づくりを大切にしています。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	状況、共感した事をご家族の面会時等にお伝えし共に利用者を支え合える関係づくりに努めています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人・知人の方が来訪しやすいよう、又、ゆつくり面会して頂ける様に努めています。今年はコロナの関係であまり出来ていません。	利用者との日々の会話や家族の話から馴染みの人や場所を把握し、人や場所との関わりを継続している。友人や知人の来訪時にはゆつくり過ごせるよう配慮している。墓参りや祭り見学、買い物、敬老会などの馴染みの関係を築いているが、コロナ禍の影響で自粛している。ただし2か月毎に訪問してもらっている理美容とは馴染みの関係を継続している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	介護員も会話に加わり、利用者同士でも話や交流が増えるよう支援しています。		

グループホーム愛敬(愛ホーム)

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご本人が退所された後も、ご本人・ご家族をフォロー出来る様な体制になっています。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人の希望をお聞きし、意向に沿った生活を送って頂ける様対応しています。	日々の関わりの中で言葉や表情、仕草などに関心をはらい、思いや意向の把握に努めている。把握が困難で、思いや意向、希望などを明確に伝えられない利用者に対しては、本人の視点に立って様子や状態を注意深く観察し、思いをくみ取るように努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人・ご家族からお話を伺い、生活に活かせるよう努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日誌やアセスメントを活用し、一人ひとりの現状を把握出来るよう努めています。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月1回のアセスメント、3カ月毎のモニタリングを行い、本人の状況に合うよう話し合いながら、介護計画を作成しています。	介護計画は利用者や家族の意見や要望、職員の意見を取り入れて作成し、月1回のアセスメント、短期3か月、長期6か月のモニタリングを実施している。アセスメントは3人の職員が3人の利用者を見て行き、毎月一人づつ担当をずらすことで全体を把握している。又利用者の変化に応じてその都度見直しを行っている。介護計画における家族の確認印は必ず得ている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の出来事を介護日誌に記入し、情報共有と見直しを行っています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	病院受診時の付き添いや、簡単な買い物等、その時々生まれるニーズに柔軟に対応しています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内ボランティア等の協力を得ながら、利用者の力を活かせるよう取り組んでいます。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人の希望する医療機関への通院同行を行い、状況の把握、報告を行っています。	利用者及び家族が希望するかかりつけ医を受診できるよう支援している。受診は職員が同行し、必要に応じて家族が付き添ったり代行したりしている。受診結果に関する情報は家族・職員が共有できている。複数の医療機関と関係を密にしている。又、毎月、協力医療機関の訪問診療があり健康管理に努めている。	

グループホーム愛敬(愛ホーム)

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	連絡が取れる体制にあり、一人ひとりの健康管理に努めています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院生活が安心して送れるよう、情報提供を行い病院と連携し早期退院になる様、努めています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化、終末期の看取りの指針があり、事前に家族と話し合い、医師の指示を受けながら医療支援が受けられる体制を取っています。	重度化や終末期を迎えた場合の看取り指針に基づき利用者や家族に事業所が対応し得るケアについて説明し理解を得ている。終末期の場合は利用者や家族、医師など関係者と十分に話し合い、随時意思確認しながら意向に沿えるよう取り組んでいる。	重度化した場合や終末期ケアが充実するよう、医療関連専門職と連携し、研修をより積極的に実施することで、職員教育や研修の充実を図ることを期待する。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救命訓練を定期的実施し、AED使用や応急手当の実践を行い身に付けています。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を実施し、避難時の手順や初期消火を身につけています。	避難訓練は年に2回(夜間想定)消防署の協力の下、家族や地域住民が参加して実施している。災害に備えて食料やストーブなどを備蓄している。発電機も近所の災害時協力事業者が提供・設置もしてくれ、速やかに発電できる。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの思いや考え方に寄り添える声掛けをさせて頂いています。	1人ひとりの誇りやプライバシーを損ねないように事業所独自の指針「介護20か条」を基に接遇研修を実施しており、日々の対応や言葉かけに配慮している。年長者として敬意を払い、尊厳を無視した対応にならないように心掛けている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の思いや希望を表現しやすい様努め、会話を持ちたり自身で決定して頂ける様支援しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりが過ごしやすいよう声掛けを行い、希望に沿った支援をしています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人と一緒に服を選んで頂いたりしています。		

グループホーム愛敬(愛ホーム)

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の下ごしらえ等を行ったり、食器洗いやテーブル拭き等、職員と共に作業しています。	地域住民提供の食材を献立に活かしながら職員が調理している。利用者は下ごしらえや下膳、食器洗いを職員と一緒にすることで食事の楽しみを支援している。食事は利用者と職員が同じ食卓を囲み和やかで明るい雰囲気を楽しんでいる。行事食や外食、出前を取り入れ食事を楽しくするよう工夫している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりに合わせた食事量や形態等、好みに合った水分の提供を行っています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアの声掛けをさせて頂き、介護員で仕上げ磨きを行ったり、義歯が合っているか等の確認をしています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	時間を見て声掛けをさせて頂いたり、排泄のサインに対応し自立への支援を行っています。	「排泄チェック表」でそれぞれの排泄パターンを把握し、時間毎に、あるいは様子を観察しながらさりげなく声をかけ誘導を行っている。自尊心に配慮し、失敗した場合は周囲に気づかれないように手早く対応している。おむつから布パンツへの改善に努め、排泄の自立に向けた支援をし成果を上げている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	運動や水分摂取の声掛けを行い、便秘予防の支援をしています。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	一人ひとり無理される事無く、お好みの温度に合わせて入浴を楽しめるよう支援しています。	入浴支援は週2回を基本とし、利用者の体調を確認しながら行っている。但し要望があればいつでも入浴できる。一人ひとりの好みの湯加減を把握し、気持ちよく入浴ができるように努めている。仲良い2人が一緒に入浴する場面もある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活習慣に合わせて、状況に応じた対応をし不眠時には安心してリラックス出来るよう支援しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員全員が薬の用法等を理解し、服薬時には職員同士で確認し、服薬終了まで見守り飲み残しの確認もさせて頂いています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	歌や読書、掃除・洗濯たたみ等、本人の出来る事を支援し、楽しみを活かした生活となる様支援しています。		

グループホーム愛敬(愛ホーム)

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一人ひとりの体調を確認しながら、外散歩や外気浴を行ったり、花見や紅葉見学などドライブの支援を行っています。	散歩や外気浴、お茶会、敬老会、祭り、ドライブ、花見、紅葉見学、外食、オレンジカフェなどに出かけて楽しい時間を過ごしているが、2月のコロナ発生時より自粛が続いている。外部接触を避けながら天気の良い日に近郊のドライブや事業所周辺の散歩をしている。5月に愛別体験農園で芋植えをする等、利用者を楽しめるような支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人とご家族の希望によりホーム管理となっています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人とご家族の希望により支援を行っています。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は清潔を保ち、過ごしやすい環境作りを心掛け、利用者様の工作や写真の掲示をしています。	共同空間の居間や食堂は、一体的で広くゆったりしていて温・湿度も適正に管理されている。玄関やトイレ、浴室は掃除が行き届き清潔である。廊下の壁には行事の写真や利用者で作成した工作、絵が飾られ季節感を出している。廊下は回廊式でユニット間を自由に行き来でき、季節の移ろいが楽しめる。利用者は好きな場所のソファで思い思いに過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールのソファで座りながら、歓談したり歌を唄われる等楽しめる空間づくりをしています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時に愛用されていた物を持参して頂き、本人の過ごしやすい居室作りを心掛けています。	居室は洗面台、押し入れ、ベッドが備え付けられている。利用者は馴染みの寝具や身の回り品、洋服、テレビなどを自由に持ち込んでいます。低めの出窓に植木鉢などそれぞれ馴染みのある物や好みの物を飾り、壁には自分の作品や家族の写真を貼って個性のある安らいだ居室になっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	場所の名称を掲示し、分かり易くしています。		